

Queen of England Elizabeth II エリザベス女王

Windsor, Elizabeth Alexandra Mary Apr 21,1926  
 Time: 2:40AM Zone: 0:00 DST: 0  
 London  
 Longitude: 0W10 Latitude: 51N30 CurPer: Ju/Ju/Sa  
 Lahiri Ayanamsa: 22:49 365.25 Day Year

As	20:42	Cp
Su	07:26	Ar
Mo	19:48	Cn
Ma	28:05	Cp
Me	11:52	Pi
Ju	29:43	Cp
Ve	21:11	Aq
SaR	01:35	Sc
Ra	27:16	Ge
Ke	27:16	Sg

Vimshottari Dashas	
Me	Apr-21-1926
Ke	Apr-23-1939
Ve	Apr-23-1946
Su	Apr-23-1966
Mo	Apr-22-1972
Ma	Apr-23-1982
Ra	Apr-23-1989
Ju	Apr-23-2007
Sa	Apr-23-2023

Me 11:52	Su 7:26		Ra 27:16
Ve 21:11			Mo 19:48
As 20:42 Ma 28:05 Ju 29:43			
Ke 27:16	SaR 1:35		

	Ve		Su Ra
			As SaR
Mo Ke		Me	Ma Ju

エリザベス女王のチャートであるが、彼女のチャートの中でもっとも目を引くのは8室支配の太陽が4室で高揚する配置である。これは明らかに王位を継承して、バッキンガム宮殿に住む最高権力者の配置である。この王位継承のエピソードは非常に興味深いのである。

エリザベス女王は本来、誰からも王位を継承するとは予想されていなかったが、エドワード8世が離婚経験のあるアメリカ人女性ウォリス・シンプソンとの結婚のために退位したので、彼女は突然、王位の推定相続人となり、一家とともにバッキンガム宮殿に移住したのである。まず、これが彼女にとっての最初の相続であり、彼女の生活環境に突然の変化をもたらしたのである。



これは8室支配の太陽が4室で高揚していることがもたらした象意であると考えられる。4室は城を表しており、高揚する太陽は王室に入って城に住むことを表している。

8室は相続、遺産のハウスであり、何か突然の変化(8室)を示唆するのである。それは人の死とか、何か不幸なことが関わるのである。

このエドワード8世の結婚は「王冠をかけた恋」と呼ばれ、離婚経験のある女性を王妃に選ぶことを教会や王室関係者に反対された為、退位して結婚を選んだのである。これは王位を捨てる、つまり、死を

## Queen of England Elizabeth II エリザベス女王

意味しており、誰かが没落することによって、棚からぼたもち式に王位が彼女の元に転がり込んできたのである。

そしてまだこの時、シンプソン夫人には結婚相手がいたのであり、不倫の関係であったのである。

つまり、これが法則（9室）を損失するハウスである8室の象意であり、王家の伝統を逸脱し、離婚経験のある女性との駆け落ちという王室関係者にとっては不幸な出来事である。相手方のシンプソン夫人は以後、ずっと王室関係者から怒りの対象となったようである。

そのような突然の予期しない出来事によって、エリザベス女王は推定相続人となり、人生が激変したのである。

しかし、ウィキペディアに『・・・自身に弟王子が生まれることを毎晩祈った・・・』と書かれているように当時の彼女は王位に就くことを全く望んでいなかったようである。

そして、父のジョージ6世が死去すると、彼女はついに王位を継承するのである。8室は9室（父親）から12室目であり、父親の死によって遺産を相続するというような象意がある。正にこの8室支配の太陽は彼女の身の上にとっては不幸な出来事を表しており、しかし一方で、何か束縛を伴う利得、財産が得られるのである。それは彼女にとっては王位であり、父親の遺産、王室の資産であった。

### 生い立ち

少女時代のエリザベス2世と妹マーガレット王女 1926年に、ロンドンのメイフェアにおいて連合王国国王ジョージ5世の次男ヨーク公アルバート（後のジョージ6世）と妃エリザベス・バウエス＝ライオンとの間に第1子として生まれる。出生時において、伯父の皇太子エドワード、父に次いで第3位王位継承者であったが、当時独身のエドワードおよびその子供への王位継承が期待されており、彼女の即位を予想するものはいなかった。また、イギリスの王位継承法では同等内の場合姉より弟が優先されるため、傍流の王女であるエリザベスの王位継承を考える人は誰もいなかったという。

### 推定相続人に

しかし、1936年にジョージ5世の死去を受けて国王に即位したエドワード8世が、離婚経験のあるアメリカ人女性ウォリス・シンプソンとの結婚のために同年12月に退位すると、エドワードの弟でエリザベスの父であるアルバート王子がジョージ6世として国王に即位する。

エリザベスは一家とともにバッキンガム宮殿に移住し、王位の推定相続人となる。そのせいもあって、エリザベスは、自身に弟王子が生まれることを毎晩祈ったという。

なお1939年に勃発した第二次世界大戦中には、戦時協力として「エリザベス・ウインザー」の名前でイギリス陸軍の少尉としてイギリス国内の基地に従軍し、軍用車輛の整備などに従事した。

### 即位

生来、病弱であったジョージ6世の健康状態は1951年に入り悪化し、翌1952年2月6日に、オーストラリアとニュージーランド公式訪問の途上のケニア滞在中に父のジョージ6世が死去すると、エリザベス2世は即位し、母は王太后となる。翌1953年6月2日にウェストミンスター寺院で戴冠式が行われ、イギリス連邦内だけでなく世界各国でテレビ中継された。

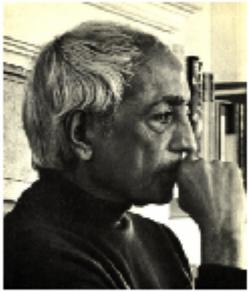
ウィキペディアより引用抜粋、一部編集

太陽が高揚するのは牡羊座のため、この8室支配の太陽が4室で高揚するのは王室に典型的な配置だと思われる。例えばジットウ・クリシュナムルティ（別紙に詳細記載）のチャートもそうである。

Jiddu Krishnamurti May 12,1895  
 Time: 12:23AM Zone: 5:30 DST: 0  
 Mandanapalle, India  
 Longitude: 78E30 Latitude: 13N33 CurPer: Me/Ra/Ke  
 Lahiri Ayanamsa: 22:24 365.25 Day Year

As	22:05	Cp
Su	28:25	Ar
Mo	02:45	Sg
Ma	19:25	Ge
Me	06:29	Ta
Ju	12:48	Ge
Ve	06:03	Ge
SaR	10:16	Li
Ra	27:28	Aq
Ke	27:28	Le

Vimshottari Dshas	
Ke	May-12-1895
Ve	Dec-01-1900
Su	Dec-01-1920
Mo	Dec-02-1926
Ma	Dec-01-1936
Ra	Dec-02-1943
Ju	Dec-01-1961
Sa	Dec-01-1977
Me	Dec-01-1996

	Su 28:25	Me 6:29	Ve 6:03 Ju 12:48 Ma 19:25
Ra 27:28			
As 22:05			Ke 27:28
Mo 2:45		SaR 10:16	

Ma	Mo		Ra
Me			As
Ju SaR			
Su Ke	Ve		

クリシュナムルティの場合も全く同じで、彼は父親が東インド会社に勤めるバラモン階級の名門の出であったが、C.W.リードピーターのエーテル視力で彼の非利己的な輝くオーラをみそめられ、そしてベサント夫人は父親を説得して、養子として引き取り、神智学協会で養育することになるのである。この出来事もクリシュナムルティにとっては予期せぬ出来事で、父親が神智学協会員だったため、協会所有のプライベートビーチにいたところをリードピーターに発見され、それでいきなり環境が一変し、人生が激変してしまったのである。一夜にして王室の王位を継承したようなものである。そして、実際、ベサント夫人によって、彼を長とする教団(『星の教団』)が設立されるのである。

14歳の頃、神智学協会の幹部チャールズ・W・レッドピーターに発見され、後に同協会に引き取られることとなる。その後、ヨ・ロッパの神智学協会に連れて行かれたクリシュナムルティは手厚い保護の下で英才教育を受けることになった。・・・1911年、神智学協会の会長であったアニー・ベザントは、クリシュナムルティを長とする教団を設立した。・・・しかし崇拜者に囲まれたクリシュナムルティはその状態を喜んでいなかった。彼の真意は宗教的教義のようなものとは縁がなく、「真理は権威を持つものではなく、まして集団に属するものではありえない」というものであった。初めのうちこそ押し付けられた教団の長という役を演じていたクリシュナムルティだったが、徐々に反抗を示し始め、いかなる宗教的教義や権威も信じていないとはっきり宣言するに至る。そしてついに1929年8月2日、3,000人あまりの団員がいた自らの教団を解散した。(ウィキペディアより引用抜粋、一部編集)

この出来事ではベサント夫人との養子縁組により、環境に突然の変化が生じて、神智学協会が待望し、その到来を準備する世界大師の器に内定するのである。いわゆるいきなり王位継承相続人になったようなものである。そして、この変化には父親との別離が伴うのであるが、8室は9室(父親)から12室目(別離)である。彼はそのポジションや役割を全く望んでいなかったのであり、幼い頃に半ば強制的に近いかたちで押し付けられたのである。彼はその役割を苦痛に感じていたことが、赤字の部分を読めばよく分かると思う。8室は束縛であり、不自由なのである。

David Beckham May 2,1975  
 Time: 6:17AM Zone: 0:00 DST: 1  
 Leytonstone, England  
 Longitude: 0W00 Latitude: 51N29 CurPer: Ra/Ve/Sa  
 Lahiri Ayanamsa: 23:31 365.25 Day Year

Ju 17:01	Su 17:41	Me 2:19 As 4:08 Sa 7:32 Ve 27:48	Sa 20:32
Me 22:02			
Mo 06:20			
	Ra 07:36		

As 04:08	Ta	Vimshottari Dashas
Su 17:41	Ar	Su May-02-1975
Mo 06:20	Cp	Mo Dec-25-1976
Ma 22:02	Aq	Ma Dec-25-1986
Me 02:19	Ta	Ra Dec-25-1993
Ju 17:01	Pi	Ju Dec-26-2011
Ve 27:48	Ta	Sa Dec-26-2027
Sa 20:32	Ge	Me Dec-25-2046
Ra 07:36	Sc	Ke Dec-26-2063
Ke 07:36	Ta	Ve Dec-25-2070

Ge	Me, Sa		
As, Mo			
Me			
Ju			Su, Ve, Ra

最後にデヴィッド・ベッカムのチャートをもう一度、見てみたいが、彼の月をラグナとすると、太陽は8室支配で4室に在住しており、彼もまるで王位継承者のようなチャートをしているのである。

彼の自宅がベッキンガム宮殿と言われる理由もよく分かるのである。彼はバッキンガム宮殿で働いていた庭師を雇い入れたり、振る舞いが王族のようであり、マスコミの騒ぎ方や大衆への注目度も英王室と同じレベルである。彼にとってこの8室支配の太陽という象意がどのように表れているのか、そのエピソードに関する資料がないが、ラグナからの8室ではないため、若干、象意としては薄れると思われる。しかし、彼が王室の人のように振舞っている理由は十分に説明できるのである。

彼の場合、4室支配の太陽が12室に在住しているため、ロンドン中心部から1時間程度の郊外に家を構えて、プライベートを守っているのである。



この8室の支配星が4室で高揚するパターンの典型は配偶者と結婚することにより、配偶者の実家や持家に嫁入りするというパターンである。8室は配偶者の資産であり、4室は家である。これが王族に限られない一般的なスタンダードな形式である。この配置は配偶者のお金によって潤うが、そこには束縛も伴うのである。